

自動車分野向けで米国チタン協会からチタン用途開拓賞を受賞

新日本製鐵株式会社(社長 三村 明夫)は、ITA*(米国チタン協会、会長 Dr. Charles H. Entekin)から、新規用途開拓として取り組んできた自動車分野での需要拡大で著しい成果を上げたことにより、先般米国にて開催された第23回年次大会でチタン用途開拓賞を受賞致しました。

本賞は本年より創設され、新日鉄はその栄えある第一回目の単独受賞となりました。

【受賞名】

2007 Titanium Application Development Award (2007年チタン用途開拓賞)

【受賞者】

技術開発本部	鉄鋼研究所鋼材第一研究部	主幹研究員	藤井 秀樹
技術開発本部	鉄鋼研究所鋼材第一研究部	主任研究員	高橋 一浩
チタン事業部	開発営業グループ	グループリーダー	山下 義人
チタン事業部	技術グループ	マネジャー	石井 満男
チタン事業部	光チタングループ	マネジャー	高山 勇

【受賞テーマ】 「自動車市場でのチタン需要拡大」

【受賞対象となった業績】

自動車における軽量化、差別化ニーズの高まりを受けて、新日鉄は1990年前半から、二輪車を中心に、排気系材料向けには工業用純チタン、エンジンバルブ用材料・懸架バネ用材料向けにはチタン合金の需要拡大に努めて参りました。

その中でチタンに関する製品設計への助言や利用技術の向上に対する協力を継続的に実施するなど、需要家と緊密な連携を図り、自動車分野での適用を推進して参りました。

こうした活動を通じた研究活動は、低コスト高強度合金 Super-TiX シリーズの開発、マフラー用耐熱合金薄板の開発、エンジンバルブ用素材の開発など多岐にわたり、研究論文32篇(内ITA発表論文数3件)、特許出願は国内外合わせ120件超にも上っています。

日本における自動車分野への販売量は1990年後半より増加し、2006年度の国内外の需要家向け出荷量は約1600トンに達しました。この間、新日鉄は、国内はもとより、世界の自動車市場の開拓で業界をリードしてきたと自負しており、今回の受賞は、新日鉄がこれまでに取り組んできた自動車分野への適用、需要拡大に対するたゆまぬ努力が世界的にも高く評価されたものと考えております。

*ITA(International Titanium Association)

1984年、米国に設立された金属チタン産業の非営利の交易協会ネットワークで、現在、世界各国のサプライヤー、流通関係者など168団体が加盟。本協会の目的は、チタン利用の利得とその実行に関し、広く啓蒙を行うことに加え、チタン産業の永続的な成長を推進すること。

以 上

お問い合わせ先：総務部広報センター TEL03-3275-5021、5024

写真1 表彰式の様子



受賞した藤井主幹研究員

写真2 授与されたチタン製の盾



写真3 二輪車マフラー用



写真4 エンジン吸排気バルブ用

